

スクールマネジメント実践報告書

06 富岡小学校

地域とともにある学校づくり

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	夢や志をもち、その実現に向けて、自ら考え、最後まであきらめずに挑戦する子ども <知> 仲間とよりよくかかわりながら進んで学ぶ子ども <徳> 思いやりの心をもち、自分も仲間も大切にしている子ども <体> よりよい生活習慣を身に付け、粘り強くやりぬく子ども
我が校の目指す子ども像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しく勉強し、読書に親しむ子ども ・ 自分の気持ちや考えを豊かに表現できる子ども ・ 相手の気持ちを考える子ども（挨拶、思いやり） ・ 自主性、粘り強さ、善悪の判断ができる子ども ・ 外遊びや身体を動かす遊びに夢中になる子ども ・ 節度をもってメディアと接することができる子ども



小中一貫教育の具体的な取組	
我が校の取組	中学校区の取組
・ 城東中学校区の年間指導計画に基づき、人権教育、同和教育の実践を行った。12月には、保護者への一斉授業公開を行った。また、授業公開後に「人権を考える講話会」を開催し、保護者や地域の方に対し、人権に関する啓発を行った。 ・ 外国語専科の兼任職員が ALT と連携しながら、3～6年生の外国語の授業を担当した。また、上越教育大学の支援プロジェクトの院生から外国語授業の支援を受けた。	・ 年度ごとに教科・領域を絞り、焦点化した中で推進していく。 ・ 同和教育部会では、指導計画の見直し、現地学習、かかわる同和教育の実践・推進、同和教育アンケート等を実践し、差別をなくそうとする児童生徒を育成する。 ・ 学習指導部会では、外国語（英語）教育の内容を把握し、小から中へスムーズな接続ができるように共有化を図る。
成果○と課題■	成果○と課題■
○ 他校の外国語（英語）の授業参観をとおして、目指す児童像、楽しくて力を伸ばせる授業の方向性を確認し、情報交換を行った。 ■ 人権教育、同和教育の授業公開の参加者は、62%と昨年より11%低くなった。また、「人権を考える講話会」は保護者と地域の方の参加が少なく、工夫が必要である。	○ 同和教育部会は4年目の取組になり、実践の積み重ねや中学校区の同和教育年間指導計画の実施や見直しをスムーズに行うことができた。 ■ 外国語（英語）部会の取組は、今後つながりの部分の共通理解を図っていく。

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容
富岡地域は、商業地域と農業地域を併せもつ地域である。2年生は、野菜を育てる活動をおして、自分の成長にも関心をもたせた。5年生は、地域の方から米作りを指導していただき、地域の商店で米販売を経験する等、身近な食問題について考えた。6年生は、身近にある職業に目を向け、地域の方の話を聞いて、自分の生き方について考えた。	生活科 「ひろげよう！～町へ 畑へ 未来へ～」 (2年)
	総合 「つくろう・守ろう・届けよう わたしたちの米」 (5年)
	総合 「人に学び 自分を見つめる」(6年)
学校運営協議会の評価 各学年の生活科や総合的な学習の時間等で自然や人と関わりながら、児童は貴重な体験活動ができています。地域の特色を生かしながら、地域の方の協力を得て年々、活動は充実してきている。今後も地域として学校に協力できることを検討していく。	夢・志チャレンジスクール事業の取組は、目指す子ども像の実現に有効であった ○ 当てはまる どちらかという当てはまる どちらかという当てはまらない 当てはまらない

スクールマネジメント実践報告書

学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	1人	保護者	4人	住民	5人	その他	1人	合計	11人
学校運営協議会の回数 ※()は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1学期	1回()	2学期	1回()	3学期	1回()	合計3回()	
	中学校区合同 ※中学校区で同数にする	1学期	回()	2学期	回()	3学期	1回(1)	合計1回(1)	

活動の内容	成果○と課題■
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回の会議では、学校経営の方針、グランドデザインの承認、児童の実態と目指す姿と具体的な取組等の協議を行った。その後、学級担任を交えてカリキュラム検討会を行った。 ・第2回の会議では、学習参観をもとにした子どもの育ちについて意見交換を行うとともに、前期の学校運営と学校評価、今後の学校支援等について協議を行った。 ・第3回の会議は、「6年生を送る会」の参観後、令和4年度の学校運営と後期学校評価についての協議及び令和5年度の学校運営の基本方針の承認を行った。 	<p>○地域の素材や人材について情報提供を受け、生活科、総合的な学習の時間に生かすことで児童の学びを深めることに役立った。</p> <p>○学習参観をとおして児童が真剣に学習し、職員が工夫して授業をしていることを委員が直接確認できた。</p> <p>■学校運営協議会が中心となり、地域と連携して学校を支援していけるような体制づくりをしていくことが課題である。</p>

総括
<p>地域とともにある学校として、地域の願いや思いを聞き、育てたい児童像を共有することは重要である。また、地域とともにある学校づくりでは、児童の学びを深めるために地域資源を有効に生かすことが大切になってくる。そのためには、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部との効果的な連携・協働の在り方が重要となってくる。地域として、子どもたちの育成に関して学校と協力し、支えようとする地域の願いを強く感じている。現在の組織における問題点等を検討し、今後よりよい組織作り及び連携方法について考えていく必要性を感じている。</p>

〈活動写真〉



○2年生が育てたサツマイモを校区内にある店舗「あるるん畑」で販売させていただきました。みんなで協力して売り、すぐに売り切れました。



○5年生は、地域の方から米作りを教えていただきました。今年は、コシヒカリを育てましたが、たくさん収穫でき、子どもたちは大満足でした。



○6年生は、看護師をお招きし、病院での仕事について話していただきました。特に、患者さんやご家族の心のケアが大切であると話されました。